

## 第4回新発田駅前複合施設サポート組織研修会 概要

- 1 開催日時 平成27年10月17日(土) 13:30~16:30
- 2 開催場所 新発田市カルチャーセンター 会議室・視聴覚室・展示室
- 3 参加者数 21名
- 4 日 程
  - (1) 開会
  - (2) 第3回サポート組織研修会概要報告
  - (3) 講演「アオーレ長岡と市民協働」

講師	柳鳥長岡市市民協働推進室課長
アドバイザー	相田長岡市中心市街地整備室課長
	木口「NPO法人ながおか未来創造ネットワーク」運営リーダー
  - (4) 質疑応答

	柳鳥長岡市市民協働推進室課長
	相田長岡市中心市街地整備室課長
	木口「NPO法人ながおか未来創造ネットワーク」運営リーダー
  - (5) グループワーク「新発田市のサポート組織活動を成功させる鍵」
  - (6) 閉会

### 研修会内容

#### 1. 講演「アオーレ長岡と市民協働」

##### ●歴史が育んだ長岡の市民協働

長岡市は市民活動やNPO活動が盛んな土地である。その歴史的背景はいくつかある。

一つ目は、長岡市は新発田市と同じく城下町であるが、江戸時代、お祭りになると町民を城内に入れて武士と一緒に楽しむなど武士と町民の垣根が低いことが資料に残されている。

二つ目は、過去2度の戦禍により焦土と化したのが、その都度力を合わせてまちを復興させてきた。市民はそれを誇りに思い、協働の精神は脈々と受け継がれている。

三つ目は、市町村合併である。昭和の約10回の編入合併と平成17年4月からの3回にわたる計11市町村の平成の大合併を通じ、市民がひとつになろうという思いが強くなり一体感が醸成され、市民力・地域力が培われた。

四つ目は、市民が自発的な活動を行うための環境づくりとして地域の人が集まるコミュニティセンターを早期に整備してきたことである。アオーレ長岡建設に先駆け、市役所窓口、ちびっこ広場、フリースペースを有した市民センターを整備したところ、勉強をするために学生が自然発生的に集まる場所になった。ちびっこ広場に子育てをする保護者が集まり情報交換を行うようになり、実証実験の場となった。

##### ●アオーレ長岡について

アオーレ長岡は、ナカドマ（屋根付き広場）、市役所、議会、アリーナ、市民が集う交流

ホール、シアターが一体となった複合施設で平成24年4月にオープンした。JR長岡駅前に位置し、空中通路で直結しており駅改札から徒歩3分という好立地にある。

敷地の周りに建物を配置し、真ん中に屋根付き広場を配置している。駐車場は地下にある。

建物は低層で4階建てである。議場は1階にあり、ガラス張りであることから市民との垣根が低くなり、傍聴者は移転前より約3倍に増加した。アリーナは最大5,000人収容可能で、来年度からはプロバスケットのBリーグの新潟アルビレックスBBの本拠地になる。

「アオーレ」という名称は、公募の結果、5,552点の中から選ばれた。小学校5年生からの提案であり、「ここでたくさんの人と会いましょう」という意味が込められている。

建物の外装、内装共に地元の杉の間伐材を使用した木のパネルを多用している。これは、行政と市民の活動が混ざり合う様子を表現している。総床面積35,000㎡のうち、約半分が市民の活動するスペースである。

アオーレ長岡建設場所の歴史を遡ると、長岡駅が長岡城の本丸で、アオーレ長岡の場所は二の丸であった。その後は「長岡市公会堂」「長岡市厚生会館」と推移してきた。

以前の市役所本庁舎は長岡駅から約1.5キロ離れたところにあった。駅前に市役所機能を移転したのは、中越大震災をきっかけに、今後、防災拠点とするためには耐震基準を満たしていなかったこと、また、市町村合併により本庁舎が手狭になり、駅前の空きビルに市役所の機能を分散配置していたことが主な要因である。

また、郊外に大型店が進出したことにより駅前が閑散としてしまい、中心市街地の賑わい創出がそもそもの課題であった。

長岡駅前に市役所本庁機能を移転したが、一か所に市役所機能を集中させるのではなく、人の回遊によりまちの賑わいを創出するため駅前にあえて分散配置をした。

分散配置により、市民をたらい回しにすることがあってはならない。そのため、市民の身近な手続きはアオーレ長岡で行えるようにし、その他の庁舎は土木部門のように比較的特定の業者が出入りする部署を配置している。

市民の身近な手続きを一か所に集中している市役所総合窓口は、平日は夜8時まで、土日も午後5時まで手続きが可能である。

## ●アオーレ構想から運営までの市民協働

アオーレ長岡は、計画段階、資金調達段階、運営段階において、市民と連携しながら事業を進めてきた。

業者選定前、業者選定後、建設中に数多くのワークショップを開催し、多くの市民から意見をいただいた。「この地で何がやりたいのか」といった発想を豊かにすることから、設計コンペの図面を基に地元の大学生を中心に模型を作成し、イメージを体感した。

建設時は、市民からの一通の手紙をきっかけに、アオーレ長岡と市民をつなぐことを目的にプロモーションビデオを制作した。これはロゴマークをデザインしサイン計画に携わったデザイナーを核として行われ、市民のアオーレ長岡への関心と愛着を深めた。

資金調達においては、市民債の発行すなわち市民からお金を借り、市民が建設に投資す

るという立場で参加いただいた。償還期間は5年で、2年間で計25億円を発行した。

アオーレ長岡の運営面においては、利用する市民の立場に立ち、より自由な運営が図られるようオープンに合わせて市民団体を立ち上げ市民が直接運営に携わるようにした。

その運営を担っているのが NPO 法人ながおか未来創造ネットワークであり、貸館業務をはじめ自主企画イベントの実施、市民活動団体が開催するイベントのコーディネート、ナカドマ（屋根付き広場）の四季折々の雰囲気づくりなどを行っている。設立当初は任意団体であったが昨年6月に NPO 法人化した。スタッフは現在約20人がいる。

またもう一つの NPO 法人市民協働ネットワーク長岡も共に運営に携わり、主に市内の NPO 団体等の相談業務を行っている。

### ●アオーレ長岡オープン後の実績

オープン後は、本物・一流の音楽祭やアイススケートショーの開催をはじめ、高校生ラーメン選手権など数多くの市民自らが企画するイベントが行われてきた。また、合併した地域の伝統文化を紹介する催しや、結婚式、また子どもたちの遠足のコースになるなど市民の自発的な利用も随所に行われている。

ナカドマ（屋根付き広場）は、早朝のラジオ体操から、お昼のランチ、夕方からの学生の勉強など一日中様々な年代の方が利用している。

オープンして3年が経過したが、年間利用者は、初年度から152万人→122万人→136万人と推移しており多くの方から利用されている。稼働率は、オープン以来8割以上をキープしている。イベントは年間に相当数開催されているが、行政主導というより市民発意の活動・イベントなど民間が開催するものの比率が年々増えている。

### ●アオーレ長岡成功のカギ

もともと、市民活動団体や多くの NPO 等の活動が盛んであったが、その成果を発表する場がなかった。また、アオーレ長岡の交流ホールは多くの団体から利用していただくため、市民活動などの一般利用は無料としている。

イベントの仕掛けとして、初年度は行政が前面に出て仕掛けた。検討委員会を立ち上げオープン後のイベントを検討し、いきものがかりのコンサートやプロバスケットボール公式戦を誘致するなどした。

また、市民活動を後押しするため助成制度を設け予算もある程度確保した。金銭的な助成により、市民活動団体はそれ以上の成果・効果を発揮し、目覚めて変化すると実感している。

建物の構造上、アオーレ長岡は特に正面玄関というものがなく、どこからでも敷地に入ることが可能である。特にナカドマ（屋根付き広場）とテラスは24時間誰もが自由に入り出すことができ、人が集まりやすい空間を作っている。

### ●まちなかへの波及

アオーレ長岡の建設を見込んでオープン数年前から中心市街地の店舗数が増加した。特

にアオーレ長岡には食堂がないことから、周辺に飲食店の出店が目立っている。逆に言うと、空き店舗は、平成19年、309件からオープンした平成24年は196件まで減少した。

駅前の既存駐車場の利用も増加し、中心市街地に集まる人がかなり増えたと言える。

アオーレ長岡という空間ができたことで、市民活動が一気に覚醒したと感じている。それがアオーレ長岡を日々成長させている。今後は、ふらっと立ち寄ることができる場としての仕掛けづくりに注力していきたいと考えている。

## 2. 講演「アオーレ長岡と市民協働」に対する質疑応答

質問1 アオーレ長岡での活動に対する補助金の対象は長岡市民なのか。

回答1 基本的には、長岡市内の活動団体がイベント等を行う場合が対象である。補助金の対象になるかどうかは、有識者を交えての審査会で審査をし、決定する。補助金の対象になるイベントは年1回が多く、年間に数件申込みをされる団体はほとんどない。

質問2 市民が発表の場を求めていたことがわかったのは、アオーレ長岡が完成してからか。また、建設前からそのような要望があったのか。

回答2 長岡市では、アオーレ長岡の建設前に旧丸大デパートの空き店舗を借り、「ながおか市民センター」をオープンし、様々な社会実験を試みた。この成果から、市民の方々が中心市街地で発表の場を求めており、各種サークル活動の発表・展示を行う方々が数多くいらっしゃり、これがアオーレ長岡という「ハレの場」を提供することのきっかけにもなった。

質問3 長岡市民が市民活動としてアオーレ長岡を利用する際は、施設使用料は無料であるそうだが、受益者負担の考え方はなかったのか。

回答3 アオーレ長岡の基本コンセプト（市民の活動の場）から市民活動を支援するため無料にしている。他にも長岡市には無料で使用できる施設もある。ただ、アリーナは受益者負担という考えをとっている。全面使用で1時間8,000円、営利を目的とする場合は3倍の24,000円。

質問4 360日開館している建物の維持管理はどのように行っているのか。

回答4 維持管理のための清掃・警備・設備運転等は長岡市が民間業者に委託している。アオーレ長岡自体は市民利用が最優先であるため、建物のメンテナンスは、市民活動を優先し、空いている時間や夜間に行う場合もある。

質問5 ナカドマ（屋根付き広場）の利用は24時間可能であり、市民に任されているそうだが治安はどうなっているのか。

回答5 7：15～22：15は職員がいるが、それ以外の時間は警備員がモニターで監視をしている。治安は、職員が驚くぐらい良い状態である。飲食等自由に使える場所は、ガラスに映る姿を見てダンスの練習を行っている方がいたり新しい使い方に気付かされる。学生が勉強をしたり、年配の方が集まってお茶を飲んだりという姿も見られる。そのため、より使いやすい環境を作るために、勉強している人が多いテーブルを明るい場所に移動させたり、ダンスがしやすいようにより大きなガラスのある場所を提案したりしている。

質問6 新発田の歴史と長岡市の歴史は大きく異なるため、新発田独自の活動を各自自覚していかなければと考えている。長岡の方から見ての新発田の見え方を教えてほしい。

回答6 アオーレ長岡が建設される前は、長岡市厚生会館という体育館と集会所機能のある建物があった。震災により使用ができなくなり、立て直しが考えられた。建物ありきの計画もあるし、計画後に建物が建つ場合もある。新発田でのニーズをおさえて新発田の複合施設を作っていくものだと思う。

### 3. 意見交換会「新発田市のサポート組織活動を成功させる鍵」

ご意見

#### ●サポート組織研修会参加者としての意見

- ・サポーターには、まちを盛り上げているという満足感が必要
- ・サポート組織のネーミングを決め、サポート組織を早急に設立すべきである。
- ・アオーレ長岡は、市民交流、場の提供がメインであり、新発田は子育て、図書館が中心であるため新発田市とは一致しない。
- ・サポート組織は有料ボランティアとし、予算がついた後に話し合うべき。
- ・活動には極力制約を持たせず自由な活動を行う。
- ・NPO法人化し、組織を作るべきである。
- ・サポーターに申し込んだ方はそれぞれの得意分野を前面に出して活動をする。
- ・無理はしすぎず、活動を継続する。
- ・活動費用の無料化
- ・今、組織について検討をしている状態で開館に間に合うのか。

#### ●利用時間について

- ・長時間開館していると良い。
- ・電車、バスの待ち時間を過ごすことのできる空間とする。

## ●場所

- ・図書館、キッチン等の使い方の固定概念を排除し、新しい使い方を考える。

## ●使用料

- ・駐車場の無料化
- ・施設利用料の無料化
- ・有料のスペースと無料スペースの分けをする。

## ●組織交流

- ・市内の他団体との交流ができる場を多く設けてほしい。
- ・市内の団体をつなげる機能がほしい。
- ・サポート活動を部会ごとに分かれて検討したい。
- ・高校生を含む学生を交えてサポート活動を行いたい。
- ・新発田駅を利用する人も巻き込んで活動を行う。
- ・新発田駅前複合施設を楽しむだけでは新発田市民の利用が大半になるため、観光等からめて市外の利用者を増やす。
- ・サポーターの話し合いの積み重ねにより活動を検討する。
- ・大学とサポート組織との協力体制を築き、若い人の力や考え方を取り入れる。

## ●コーディネーター

- ・大きな団体の意見のみを優遇せず、個人の意見も汲んでほしい。
- ・サポート組織内で意見交換を行う。
- ・市民と行政の信頼関係により、一緒に組織、活動を作り上げる。
- ・自分でアンテナを張り、向上心を持つ。
- ・独りよがりの活動にならないように、サポーター間のつながりを大切にする。
- ・現在、ボランティアを行っている現場の意見を聞いてほしい。

## ●飲食

- ・現在の図書館や分館は飲食ができず不便であるため、新発田駅前複合施設は飲食ができると良い。
- ・キッチンスタジオではアルコールを飲んでコミュニケーションが取れると良い。

## ●イベント

- ・キッチンでは新発田産アスパラを使用しての料理・菓子コンテストをやってはどうか。
- ・新発田まつりの前に民謡流しの音楽を流す。
- ・新発田まつりのPR活動。
- ・定期イベントとビッグイベント両方を開催し人を呼ぶ。

●アクセス

- ・車を利用しない方も来られるよう、循環バスの交通の便を良くする。

●新発田駅前複合施設への市民としての意見

- ・市民が行政に直接意見を伝えられる場とする。
- ・新発田駅前複合施設に市役所の分館的機能を持たせる。
- ・新発田駅前複合施設に市役所機能を持たせるのであれば、窓口の時間を延長する。
- ・商店街の賑わいの創造。
- ・新発田駅前複合施設には多くの機能が入りすぎて、図書館の機能が薄まっていると感じる。
- ・施設のネーミング（愛称）を早急に決定し、市民全体の意識を高める。
- ・待機児童や働く女性の支援を行う。